

今週の聖書教育誌の週題は「神の武具を身に着けなさい」です。六回にわたりエフェソの信徒への手紙を読んできました。皆さんは今回の学びのなかで、どのようなみ言葉から示しや招きがありましたでしょうか。

手紙の全体を少し俯瞰して振り返ってみましょう。1章から3章までは、神の救いのご計画とは何か、普遍的な教会とは何かを伝えています。つまり神学的な意味での教理について伝えています。4章から6章はその教理を覚えた信仰生活についての勧めを語っています。

1:3 神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。

神の祝福とは、私たちが神の愛によりキリストによって救いの恵みに与ることが約束されているということです。父なる神、子なるキリスト、聖霊により私たちは救いに与る存在として救いのご計画のなかに永遠にあるのです。

この恵みに与った私たちには希望があります。神の栄光を見ます。神の力を知ります。私たちは神を礼拝する者へと変えられていきます。

1:22 神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。

私たちは主なる神を知らない異邦人でありました。けれども、キリストとの出会いによって真の人生の生きる意味を見出し、新しい人(新しい自分)に造り変えられ、神との和解が実現してキリストを頭とする教会につながる恵みに与ることが赦されたのです。

3:6 すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。

神の霊的な祝福は私たちすべての人に向けられていること、聖霊のお導きにより私たちは内なる人(理性・感情・良心など)が強められ、信仰によりキリストが私たちと共におられ(内在されるキリスト)、神の愛に立つ者へ変えてくださるのです。

4:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

5:1 あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。

私たちは神からの使信が与えられたのであれば、それに忠実に従う信仰生活の実践が欠かせません。それにより古い生き方から新しい生き方へと歩むものとして成熟・成長させていただけるのです。けれども、私たちの二律相反している心の罪の芽は救われた今でも悩ませます。

ロマ 7:19 わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。

救われたのに罪を繰り返し犯してしまい、救いの御業から離れ落ちてしまったと考える人がおられます。こんな私は救いのご計画の中にはないのではないかと悩まれる方もおられるでしょう。それは私自身も同じです。

救われた私たちは、なおも地上での信仰の旅路においては繰り返し試練がどなたにも訪れます。自分の力に頼りこの世の試練(悪魔の誘惑)に立ち向かおうとしても到底、敵いません。その力はそれほど強いのです。

けれども、このみ言葉を思い起こしたいのです。

ヨハネ 16:33 これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」

神の子キリストが私たちの救いために世に来られた事は、世を支配する勢力はやがて打ち滅ぼされ「神の国」が到来する幸いのなかに私たちはあります。しかし、なおも世を支配しようとする勢力は抗ってきているのです。

エフェソの信徒への手紙の最後のメッセージとしてキリストに倣う者として「神の武具を身に着けなさい」と言われます。「神の武具」とは何なのでしょう。

6:11 悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。

帯を腰に締め、胸当てを着け、履物もしっかり履き、盾をとり、兜をかぶりなさいとっています。当時の人たちは最強軍団であったローマ兵を連想したのかもしれませんが。このように備えれば敵からの攻撃を打ち破り、かつ守られることでしょう。もちろん、これは比喩であって私たちキリスト者が身に着けるものは「神の真理」「平和の福音」です。そして、これらはすべて神の恵みにより与えられるものなのです。悪に対抗していくためには私たち人間が考えたもの、造ったものでは抗えないのは明らかなのです。

6:10 最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。

6:18 どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。

私たちはキリストを知らなかったときには苦難・試練に遭うと自分の力、周囲の人たちに頼ろうとします。しかし、私たちが真に依り頼むお方はキリスト以外にはありません。たとえ、キリスト者となった後もさらに大きな試練が襲ってきます。繰り返しますが、この地上の世界ではなおも暗闇の勢力が抗っているのです。その影響を受けて罪をたとえ犯したとしても私たちが主の前に悔い改め立ち帰ることを神はいつもやさしく待っておられるのです。

「私は既に世に勝っている」とキリストは宣言されています。この宣言は真理です。しかし、私たちが「救われた」ということのみ喜び満足し、そこに留まっていたら悪の力に惑わされた時には対抗出来ません。今日の福音派のプロテスタント諸教会の課題がここにあります。

「真理」と「福音」を身に着け、そして祈りなさいと言われます。「絶えず」「目を覚まして」「根気よく」祈りなさいと言われます。私たちは祈りの力がいかに大きいかを知っています。それは、私たちの切なる祈りをキリストが執り成してくださり父なる神が応えてくださるという恵みだからです。

キリストに倣うことを思い違えてキリストを真似ることで自らの力を強めて誇るということではあってはなりません。私たちは神の力が授けられているという信仰の確信によって世に打ち勝ち勝利することが出来るのです。それによって励まされたならば自分自身に留まらず私たちの「となり人」に対しても執り成しの祈りを捧げる信仰をより強くしていただけるのです。手紙が書かれた当時、エフェソ信徒への手紙を様々な教会で幾世代もわたり回覧して励まされたキリスト者たちと同じく、主のみ言葉に生きていきたいと願わされました。

● 分かち合い

- ・ 自分の力だけでは、どうにもならないことがあなたの人生にありましたでしょうか。どのように乗り越えてこられましたか。思い起してみましよう。
- ・ 今日、日本のキリストの諸教会はコロナ禍・高齢化・教勢の伸び悩みなどの試練のなかにあります。「神ならぬものを神のようにしている」社会のように思えますが、あなたはどの様におられますか。

(担当：H.G.)



ショートメッセージは、教会ホームページから動画でも視聴できます。

左のQRコードを読み込むか、スマホ・PCからご覧の方は[こちら](#)をクリックしてください。

公開：8月4日（木）～